



第63号

# 木曾川町連区



## 地域づくり協議会だより

【発行日】令和6年4月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会

☎493-0006 木曾川町内割田一の通り27

(一宮市木曾川庁舎内) ☎84-0005

【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp

【ホームページ】<https://138kisogawa.org> 木曾川町連区で検索してね♪

HPIはこちらからどうぞ



### 「防災講演会」を開催しました ～木曾川町連区地域づくり協議会発足10周年記念事業～

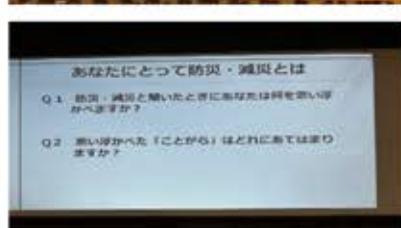
12月20日（水）に木曾川町連区地域づくり協議会発足10周年記念事業として、防災教育講演会を開催しました。

木曾川中学校1・2年生を対象に「自らの安全・安心を高めるために～防災・減災への取組～」と題し、東北工業大学学習支援センター教授・佐々木克敬氏をお招きして、災害が起きた時実際はどういうことが行われたのか、その際にどう動いたのかなど、災害時の経験を踏まえてご講演いただきました。

併せて、講師が編集された「学校安全ポケット必携」を学校に寄贈しました。実際の状況やクイズ形式でのご講演は、生徒の皆さんの防災意識の高まりに貢献できたのではと思います。

その後、能登の地震が起きました。いまだ困難の中に多くの方がいらっしやいます。私たちもこれまで以上に備える対策をしていかなければなりません。

この講演会は終わりましたが、さらに防災の意識が町全体に広がっていき、一人一人の意識が高まるきっかけになればと強く思います。



### 「防災倉庫備蓄品」について

1月に発災した能登半島地震は、改めて巨大地震の恐ろしさを目の当たりにしました。家屋の倒壊、それに伴う多くの犠牲者は本当に悲惨な状況です。またライフラインの壊滅的な状態で多くの被災者が避難所へ避難しています。避難所で生活するに欠かせないのは、飲料水と食料品です。

地域づくり協議会では、社会福祉協議会木曾川支会と協力し、避難所として利用される黒田小学校・木曾川西小学校・木曾川東小学校と木曾川中学校内に設置してある防災倉庫に毎年備蓄品を備蓄しています。

学校毎に備蓄してある主な飲食料品は、次のとおりです。

- ・飲料水（500ml） 960本
- ・保存食（山菜おこわ、わかめごはん、ドライカレー） 1,000食
- ・えいようかん 800本

とても十分な量ではありません。一般的には、電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、飲料水や非常食を最低3日分、東海地震をはじめとした大規模震災の可能性のあるエリアでは1週間分以上の備蓄が呼びかけられています。

そこで誰もがができる備蓄法として、備蓄品を消費しながら保存する方法である「ローリングストック」がとてもオススメです。

普段食べているような食品を災害時でもおいしく食べることができ、精神的な負担も最小限に抑えることができます。その他にも「お風呂の残り湯は翌日まで残しておく」「トイレトーパーなどの日用品は少し多めに買っておく」など、ちょっとした積み重ねで備蓄はできます。

**皆さんも今一度災害に備え、備蓄品について考えてください**



地域づくり協議会防災倉庫  
(木曾川中学校)

# 木曽川町連区地域づくり協議会発足10周年記念事業 “Public Talk in Kisogawa”を開催しました

2月3日(土)、木曽川庁舎2F会議室を会場に、木曽川町連区地域づくり協議会発足10周年を記念して「Public Talk in Kisogawa」を開催しました。

区長・町内会長・民生委員などをお務めの「高齢世代」、子(孫)を育てる「子育て世代」、高大生の「若者世代」の3世代から24名が参加し、4つのグループに分かれてこれからのまちづくりについて熱心に意見を交わしました。

テーマは、「**少子高齢化が進む中、地域のつながりをつくるには?**」

話し合いは、

**「①共助としての地域防災、②高齢者の生きがいや楽しみ、③安心してできる子育て」**

を視点とし、各世代ならではの見方・考え方を交換しながら、ふだんからできる世代を超えた地域のつながりをつくる手立てを考えました。

能登半島地震直後だけに、参加者の防災に対する意識が高く、実際にこの地方でも起きうる状況にどう対処していけばよいのか、活発に話し合われました。毎年、地域づくり協議会が主催している「HUG(避難所運営ゲーム)」や「小学校区防災訓練」の必要性・重要性が改めて浮き彫りになりました。

高齢者の生きがいでは、日々の生活の中で自分の趣味が生かされたり、地域の中で必要とされ、誰かの役に立っている実感が持てたりすることが大切だと指摘されました。

また、世はスマホ時代。それについていけない高齢者も多く、若者がその扱い方を高齢者に教える教室を開いたら、という提案もありました。

子育てには不安がつきもの。不安を抱えた人がさまざまな場所・方法で同じ悩みを抱えた人と交流する、安心できるアドバイスがもらえる、そんな地域の取り組みが必要だとの指摘がありました。若者世代からは、自分の子ども時代を振り返って、安心して遊べる環境の中で、もっと子ども同士や親同士が触れ合える場を整備することが大切との声が上がりました。

4つのグループに分かれて話し合われましたが、どのグループにおいても、共通して指摘されたのは「日ごろの地域でのコミュニケーションの重要性」です。どの視点についても、地域に暮らす人々が世代を超えて「知り合うこと」「触れ合うこと」が大切だと結論づけられました。

今回、このような機会に大勢の高大生が参加してくれました。地域の問題は、さまざまな世代が交流しながら話し合い、解決の糸口を見出していくことが欠かせないですね。



PIC・COLLAGE

## 「川合玉堂講座」を開催しました（活気部会）

1月27日(土)、玉堂ゆかりの「玉堂記念木曾川図書館」を会場に、昨年度に引き続き『木曾川町再発見講座「日本画の大家・川合玉堂は木曾川町出身！」』を開催しました。

初めに、一宮市博物館学芸員さんによる『出前一聴講座』として、スライドを使って「川合玉堂の作品と生涯」を解説いただきました。それに続いて、今回は玉堂終焉の地・青梅御嶽にある玉堂美術館からご提供いただいたDVDを鑑賞しました。そのDVDには、生前の玉堂の生活ぶりや作品制作の様子が含まれており、参加者にとっては、在りし日の玉堂の姿がよく分かりました。

参加者には、参加記念のオリジナルクリアファイルや玉堂年譜、玉堂美術館の館長さんからのメッセージをお渡ししました。また、今回は特別に、一宮市博物館からいただいた「玉堂カレンダー」をジャンケン争奪戦に勝利した2名の方に差し上げました。

講座の最後には、図書館3階にある玉堂作品展示スペースに移動し、レプリカではありますが玉堂作品の数々を鑑賞しました。解説を受けた直後だけに、作品を鑑賞する視点がより深まったのではないかと思います。

この講座は、今年度2回目でしたが、初めて玉堂終焉の地にある玉堂美術館のご協力を得ることができました。おかげで、生誕の地と終焉の地、玉堂が結ぶ2つの地のつながりが生まれました。来年度も開催を予定していますので、多くの町民の皆さまにお越しいただきたいと思います。

また、今後、東京青梅の玉堂美術館を訪ねる機会がありましたら、ぜひ「生誕の地・木曾川町から来ました」とお伝えください。



## 木曾川西小学校開校150周年記念 「私の思い出」(活気部会)

今年度、木曾川西小学校は開校150周年を迎えました。

これまでにたくさんの卒業生が巣立っていますが、在校当時の思い出をさまざまな世代の7名の方々に綴っていただきました。詳しくは、右のQRコードから協議会ホームページにアクセスし、お読みください。



### 広報部会より

広報部会では、「ご意見箱」を使って、「地域の問題解決」を皆さんと一緒に話し合って実現する「参加型の地域づくり」を試みていきます。

第61号のテーマ「市民体育祭」について、多数の貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。関係機関に結果を報告し、今後の参考にさせていただくよう、お願いしました。

**今回の「ご意見箱」のテーマは「地域づくり協議会の活動について」です。**

どのような活動を望むのか、どのような事に取り組むべきか、皆さんのご意見をお待ちしています。

スマホで右のQRコードを読み込んで、回答してください。(回答期限 5/20)



# ハナミズキの現状と追加植栽

令和4年の10月末に「一宮市制100周年+1」の記念事業として、木曽川町内に20本のハナミズキの苗木を植樹しました。

一宮市が中島郡一宮町から「市」になって100周年過ぎたことをお祝いし、またこれからの一宮市がさらに発展することを願って「市の木」である「ハナミズキ」の苗木を木曽川町の皆さんの手で植樹してもらいました。植樹をした場所は、一宮北保健センター南にある公園や町内9区、また4小中学校の校庭や広場です。別表に植樹場所を記載しておきます。

木々はこの春で植樹してから二冬を越したことになります。配布した2メートルの苗木は幹も太くなり、高さも2.5メートルを超えるほどの成長をしています。一宮市北保健センター南の公園に植樹した苗木はすでに3メートルを超え、紅葉の時期には素晴らしい色合いの葉をまわっていました。今は落葉して伊吹おろしに耐えています。

20本の内、4本の苗が昨年の夏の暑さのせいか、残念ながら枯れてしまいました。地域づくり協議会では、本年度に限り苗木の再配布をすることにしました。令和6年の1月末に皆さんの要望にお応えをし、再び植樹をしました。しっかり根付いて成長してくれることを願います。

## ハナミズキの花の蕾を探しに行きませんか。

ハナミズキの花芽は7月から8月ごろにできます。その年にできた新小枝の先に小さな丸い花芽を付けます。年を越し1月ごろには、来る春に咲くまん丸の花蕾となります。一宮北保健センター南の公園に植えた白花ハナミズキは150近くの蕾がついております。花は桜の花が散った4月末から5月にかけて一斉に咲きます。あなたがお住まいの区のハナミズキは、いくつの花が咲きそうですか。

皆さんで植樹した場所	
区名等	植樹場所
門間	伊富利部神社
南黒田	白山神社
北黒田東部	籠守勝手神社
北黒田西部	西小路ちびっこ広場
内割田	内割田北公民館
東割田	東割田公民館
西割田	きそがわ幼稚園
玉ノ井	賀茂神社
里小牧	緑道の散歩道
町内4小中学校	校庭・花壇
植樹の会	市北保健センター南の公園



「つぼみ」  
分かりますか？



さて、どこの  
「ハナミズキ」  
でしょうか？

●が植えた苗木の数だよ。

【ハナミズキ】  
別名アメリカヤマボウシ  
北アメリカ産。日本へは1912年に  
アメリカのワシントン市に贈った  
サクラの苗木として贈られたとされ  
有名。花の盛りは4月中旬から5月ごろ。

ハナミズキの植樹の様子はHPに掲載してあります  
下記QRコードを読み取り、  
ご確認ください。

